

2022年 3月 31日

2021年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 認定NPO法人四つ葉のクローバー
代表者・役職名 氏名 理事長 杉山真智子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

主体性を育むグループワークと、管理栄養士(栄養士)による安全な食の提供

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

18歳になると児童養護施設や里親家庭から卒業するが、その多くの若者は経済的なことに加え体力的・精神的にも自立するには十分な力が備わっていない。誰にも頼ることが出来ないという大きな不安を抱える中、社会に出てつまずく者も少なくない。このような状況を改善するために、2013年6月にシェアハウス夢コートを開設し、当ホームに入所する間に自立できる力を身につける支援を行っている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

毎月1回、若者たちの主体性を育むグループワーク「真夜中会議」を開催している。そのグループワークでは若者の交流や困り事などの話し合いを行っているが、同時に管理栄養士による食の提供も行っている。これは、食事を通して「食」に関する知識や「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現する一助となることを目的としている。また、拒食症がある若者に対しては、栄養管理等の側面や精神的な対応が個別で必要であることから、個別ケース相談を行った。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- 当ホームで毎月1回開催される「真夜中会議」を活用したグループワークの実施
 - ・利用者全員での食事
 - ・グループワークの実施
- 管理栄養士による「食の安全」の確保及び個別ケースの相談・対応
 - ・定期的な調理(週1回)※週6日は別のスタッフが担当
 - ・施設衛生・栄養面の管理・定期チェック(週1回)
 - ・拒食症等、必要に応じて若者の個別ケース相談

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

新型コロナウイルス感染症の拡大に配慮しつつ、三密の回避や食事提供の工夫など感染防止対策を講じて「真夜中会議」を開催した。真夜中会議を実施することで、若者たちは安心して生活することができた。また、管理栄養士による栄養管理が行き届いた食事の提供や食育を実施することで、健康管理に注意を払うことの重要性を身につけることができた。なお、リラックスできる雰囲気づくりとして食を介することはとても有効であり、困り事や相談したいことなどを積極的に話し合うことができた。「相談する」力が備わったという点においても、これから社会生活を送るうえで、とても有意義な活動を実施することができた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

自立援助ホームとして若者たちを受け入れる中で、当ホームの入所期間は平均1年3か月である。特に近年は、高年齢児になるまで虐待が発見されず直接家庭から入所するケースが増加傾向にある。また、精神疾患や発達障害などを抱える若者も多い。本プロジェクトは「食の提供」ならびに利用者の「交流」をとおして自立支援を行っているが、その意義を継承しつつ、様々な特性のある若者に対して一人ひとりに合った支援体制を整えていくことが必要である。1年3か月という平均入所期間を踏まえて、個別ケース対応をより丁寧に実施していくことが求められているため、職員のスキルアップも図っていきたい。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

真如苑事業報告活動写真

4月



5月



6月



7月



8月



9月



10月



11月



12月



2022年3月

